石櫻新聞

発行所 石櫻会出版委員会
印刷所 岩手新報社

学校図書館設立

校内放送の夢実現か

新教育の嵐

全国の学校の大部分が五日制を実施し、県下の各高等学校において昨年十月よりすでに実施されて来たが、本校においては中学、高校を併設し、五日制の実施に対する外的関係の観点より実施の時期について、委員会は県下各高校の実施の経過及びその影響を調査し、諮問機関に提出したのち程されに対するPTA及び職員の意向も考慮し、ついに本校においても来る十五年度五月八日を期して五日制の実施のはこびとなった。

本校は総務委員会、PTA、職員の間で五日制の実施にともない新教育体系の事業として、結成された、委員会は県下各高校の視察、また現在の図書部を発展的に解消させて生徒図書館として、より充実されたものにするとともに、管理自学の実施などが検討され、すでに実施の運びになっている。

また新教育方式に関連を持つ生徒心得」が総務委員会の審議も済み全生徒に配布された。

図書館準備委発足

五日制は各自の個性の伸張と自学自習を目的とするものであり、学校図書の充実はその問題とは切り離せないものとして過日他の高校において図書部の委員会の発足が行われ、委員会綱領一致で可決されての準備委員会が結成されたが、本校の図書部の設置のはじめとなった。

三ヵ年計画が起案された二十五年度第一回石櫻会合同委員会を調査した五日制準備委員会の報告に感られていたが、本校の図書部の設置は、図書部の発足は、この問題とは別会にて図書部の委員会への昇格により、委員会綱領一致で可決されての準備委員会が結成されたが、石櫻会本部の義援金、その他に図書費の徴収、月額十円が決定され、職員図書の解放と相まって近く図書室も現職員室に移転し、図書部の発足に便に供せられるなお準備委員会の委員長は三B野田二、副委員長三B佐々木実、以来PTA、職員室の双方に放送中三有田正巳と決定、総会の準備あり次第初代図書部長となる筈である。図書委員は次の通り

工藤郁夫、藤原利夫、小原一二、笹森博助、川村洋一、下山進（以上高校）加藤忠、村木宏彰、北田正夫、浜田隆志、李野幽男（中学）

六月早々放送開始

放送による教育と福々の伝達を速やかにする等の必要性から昨年以来PTA、職員室の双方に放送設備設置の気運が高まって来て居たが、この度放送を通じて校長先生の訓辞が放送され、合唱団の合唱や時の予算は約二十万円、五月に完成される筈で専任者が定まるまで山中先生がこの間隙を取り扱われる。

放送設備は不明であるが大体旧応接室に旧放送委員会編集室とつながれて設置される模様であり、ここから各教室、講堂、雨天体操所、グランド等に向って放送される。放送の担当教師及び生徒の機構未完

この施設を通じて校長先生の訓辞が放送され、合唱団の合唱や時の朗読が展食時にスピーカーを通して流れ、外国放送による英語の講座も放送されることなどは放送開始は不明であるが、とまれ、この間隙は発表以前から生徒間などからもなく流布し、各教室、講堂、雨天体操所、グランド等に向って放送される。放送の担当教師及び生徒の機

管理自習制採用さる

五月より五日制を採用することに伴い、新教育は読込主義を排していたが、カリキュラムが新に編成されたが、その中に管理自学の時間が設けられることになった。この管理自学について学校側では次のように説している。

管理自学は教師の指導のもとに生徒の生活経験から生まれる問題を研究し、よい学習方慣を養成するのが目的である。新教育の目標とするところは基礎的な知識は無論ながら、更に生徒各自の生活上の経験からの教育を重視している新教育というる過去の一切を否定するものでなく過去も未来も将来も合めて現在を考えるべきは……当然であり徒に新しきものに走り、教育目的をゆがめないよう注意しなければならない。管理自学は各生徒の学習意欲や学習技術の習得があるから各自の個性に即したテーマを選び、個性に即した学習技術を習得しなければならないこのような技術の習得は指導者の指導のもとに行わなければならない。

二十四年度学期考査後、総務委員会は昨日休暇にも登校して生徒心得の原案の審議を続け、総務委員会の手になる修正案を以て全て十七日が巡って来た。本校の創立二十四周年記念式典は公会堂を借りて、二十五年三月十七日だが、当日は学校を挙げて記念祭を行なうのに遊び、この生徒心得の中には、一般心得作業現場、集会規定及び石櫻会規約などが記載され、終戦後初の生徒心得として、余り細部にわたり例年のように非公開で夜の部を出演各部とタイアップして練習を開催している。計画立案は文化

ちよっと待て!!

生徒指導部の活躍

「雪どけの春、心の紐をゆるむ時節とは相成り申し候」

指導部主幹木（誠）先生を迎へて、いよいよその働きを活発に始めているが、昨年行われた服装検査相当激しいが、本校生は非常に少なく「一人か二人」との管理人の等は余り行わぬ方針で、寧ろ校外生活の指導に当る事になった先づ初めに前後回に恒って注意があつたにも係らず、今以つて最休みの時間に無断に外出するものがあるので取りしまり を強化するとのら事である。

権利とは義務及び責任の忠実なじゅんぜんによって与へられるものであることを、これ等不心得者は知るべきであろう。

現在不良化の温床として巷間に取りざたされている場所から記者はその状況を聴取した。

パン屋：昼になると上靴のままで飛び出す生徒が、三々五々グループを作ってあちこちの垣根からパン屋に向って走り出す、その者のほとんどが高校生のものであるのだ。

ビヤホール：出入者は見当らない。

マージャンクラブ…マージャン屋の主人は何故か言葉をにごしていたが禁止されている今なお出入りしているものが相当の数に上る模様で厳重な取りしまりと生徒の自覚を要するだろう。

【写真は面接試問】

【写真は合格者発表】

【写真は休み時間】

【写真は筆答試問】

入学試験のぞ記

左上 筆答試問

地獄に落ちるか極楽か、どうか前途の関ヶ原。かわいゝ蟲の調べ

右上 面接試問

甜平をにぎせて鉛筆を走らせる未来の弟達

掛花

……野草……

安部彰一

野原の中の野草は
風に吹かれてゆらりゆらりと
ゆれている
それはまるで
いつぱいの緑の生物が
楽しゝおどっている様に
見える

……日記より……

川村洋一

主役の眼鏡に生きる日元に
働ない一つの
ゆうめきを見る
けし粒の様な人生の
何処に抗し得る
谷に突った浪漫の性が
なおも
灰皿に落されようと
真実に
救いを求めてさえのめされる
一体
愛とは
自分のものかも
解らぬ世の中に
愛を求め
愛に泣く
自分が解らない

……追憶……

村山武

ふるさとの川のほとりに
ふかみどり繁くそよぎて
そのかみの昔はありけり
童なる昔はありけり
あたゝかき草に腰はひ
丘の辺に遊び倒くれば
まゝごとの花ぴら投げて
をみな子といさかひもしき
名も知らぬ真白き花の
八千草の陰にかくうひ
咲きそれの心なく折りて捨てにき
微笑みて人は見行きし
みどりなる岸辺ならけりの
面なつかしきかな
いづこにか今は在りまさむ
幾版秋はめぐりて
然思ふ昔とはなりぬ
独り子の心にしのび
いつとなく夢に描き
ふるさとに飛びゆくごとく
秋の鷺ぐ流る、
思ひ出の秋のも、草
かの匂に今もよぶか

……私が貰おう……

宮手タケシ

横隔膜の脈動に
そして巡礼のかの弱い才気に
無鼓味と俗物を
欣然の燃焼に耐えつゝ
君の言った事は本当だった。
聖賢の様な眼差しを
君が見たと言う
その女性の一人を
真実の偶然を知る感に
住診も、悦楽も
君の気まゝに委せよう
大きな城の街道辺り。
うねりも一杯
通りがかりの商店の石膏の山、
ヴィーナスも
むしばくれた
古本屋のあの頃
書架に並んだ沼田の書籍も
気取った君の目前も
みんな私が貰おう

……春景……

宮手孝

呼んでいる
空の二つの鐘
垂れて下った地層のかけらを
一つ一つ拾いながら私は
呼び声のする方を後になりながら
昨日迄の爬虫類が
はーつつと息吹する
崩れ去るもの、力強さに
大きな噴息は
あゝそれは春の風吹き
おーいッ
空は広い
一つの鐘

……俳句……

山本金一郎

みちのくや春のしるしのよもぎもち

大山信雄

岩手山薄雪く見ゆ春の月
白々と明けゆく空に汽笛かな
子供等はとんぼ取りと走り行く

文化体育短信

強風を行く

……山岳部員……

岩手登山

去る四月十四日山岳部員、津川、佐藤の両君は悪天候にもめげず岩手山に登山を敢行した以下両君の話用具の不足と目標りの悪、雪を交えた風に押され九合目より引返したが、第二回七合目より三合目まで快適なグリーセードを味わった。柳沢からの帰途は山次事に出合ったが無事帰着した。また同君の秋隊へ東北選手権保持者、本校

ボクシング王来校

二十四日午後二時より、講堂にて高岡鎧鋼クラブの選手は近藤義彦他一名である。

市内高演連

創設以来第年の歴史を持つ市内高校演劇連盟の二十五度第一回委員会が五月十三日、県図書館小会議室で開かれた。第一回〝警長さんはお入り〟第三回〝真似〟を各発表会に発表した本校は連盟の選ばれて来た。なお、今年

寄稿 抑留生活の一断片

日野岳浩

灼熱の日に毎日の作業が続く、帰える日を待ち焦つ、獣々として、働く、ゴるはしをにぎりながらも故郷の面影をどうするとも出来なかった。戦争が終れば人間の心もこんなに弱くなるものか、今までは自分に向って来るものは弱いものと思って踏んできたが……

はんごうを肩に背い足を引きずりながらキャンプに帰える。飛っている当番はドラムかんの風呂をわかして待っている。風呂は何処でもどこなものにわかしても気持のよいものだ。すっかりよい気持になって夕食のテーブルに向う。

連合軍の粉与によって感命をうながされてもらっている。大しだでもちそうもないが腹が空いているのが食べて、うまいことの上ない。急いで食べるとすぐ底が見えるからゆっくり一口々々をたしなみながら食べる。隣りのキャンプでは何処から持って来たのかはんごうに一杯から出来ている。酒を飲んだ男の声、大分酔っているようだ。

終戦になってから早や一年三ヶ月、未だに内地帰還の命令なくその仕事に追われている。ビルマに来てからは三年半、過去のことが追懐感の如く浮んで来る。

ビルマは実に仏教と信仰との国といっても過言でない。部隊どこでもそれが見出され風景に一段の光彩を添えている国、仏塔はし細な点まで思い出すと種々の相違もあるが概していえば、孤高、簡段の美さ、これに最上部を安し九輪かの西洋鐘を伏せたような、形の塔の真先に盛岡高校上田教員が脱退の狼火をあげ、全国的に知られていた学映連の団体骨がぐらつき始めた。本校支部は、過日教内会員のもの

【写真は強風中を行く岩手登山】

らは一月、四月初旬に廃組織、及び真昼山、鳴神山を行なった、なお次回は鳥海千山を目指し連日登山練習に余念がない

学映連より脱退

専門校、中学を主体として発足した学生映画連盟も、四月の半月を重ねた現在、事務所を会営、映教内に置き、大学、高校計十四校をその傘下に置き、講演会に名画鑑賞と活動を続けて来たが昨秋来漸くその主体性が問題となり

編集後記

四月号に発行する筈だったが、印刷所、石桜会の予算が決定しなかったのとでとうとう五月号はなってしまった。だから記事も古臭いのが多くなったが、何卒、御見逃し願いたい。何分、忙しい学業の合間にペンを採るのだから、なお見のこと。

今既は中学の投稿が少かった。今後は中学の投稿が増えることを望む。

お忙しい中を寄稿賜ったP.T.A.日野岳両先生に紙上で御礼申し上げます。

次号からPTAとの連絡を強化する筈だから内容も充実する事と思う。先ずは諸兄の投稿を待って居る。（詳・剛・哲夫・悟史）

原稿募集

石桜新聞の原稿を左の要領で募集致しますから奮って御応募下さい

応募資格 本校生徒。PTA諸氏。卒業生。

内容 評論、小説、詩、短歌、俳句、随筆、漫画、時事漫画、映画、演劇、美術、音楽批評等、その他。

締切期日時に定めない

提出先 石桜新聞会編集部あて

（社会科担当）

休み時間

父兄 どんな問題が出たのうんウ？簡単だったよ

生徒 みんな出来たかい

父兄 出来た所は出来たが、できない所い出来ないよ

生徒 この学校は歴史が古く、設備が整い、在校生の成績もよくまた先生方がつぼな人ばかりだから。

先生 君はお世辞がうまいね

生徒 はゝ？

父兄 ？

左下 休み時間

右下 合格者発表

食事が終ると思い思いの仕事にとりかゝる。将棋、マージャン、トランプ、日記をつけるもの、その時の皆の顔はもつとも楽しそうだ。故郷のことを忘れたかのように遊びに夢中になっている。時々隣のキャンプからは大きな声が聞えて来る。酒を飲んだ男の声、大分酔っているようだ。

ビルマは実に仏塔と信仰との国といっても過言でない。部隊どこでもそれが見出され風景に一段の光彩を添えている国、仏塔はし細な点まで思い出すと種々の相違もあるが概していえば、孤高、簡段の美さ、これに最上部を安し九輪かの西洋鐘を伏せたような、形の塔の真先に盛岡高校上田教員が脱退の狼火をあげ、全国的に知られていた学映連の団体骨がぐらつき始めの酒をのんだのみに飲んでいるものの四分の十の正方形の城壁に囲まつた。

マンダレーヒルの南東のふもとのマツチをもつている手をしつかり握りしめて、王宮を中心として城内に寺塔があり、主としてチーク材を用いた建築で、鶴見堂、王宮、仏像等が朱色に塗った約五百名の生徒の正しいスポーツへの理解に大いに役立った。まだどれを漫会に校内にもボクシングクラブが、戸島先生の評に結成されようとつつある。

ポートクラブ猛練習

本校にある年からボートクラブなるものが新らしく組織され、来るシーズンに備えてトレーニングに運日高松出野をかけ回っているボート部で市内にその数も少くこのクラブの実力は未知数ながら優勝を期待してよいだろう。

明るいマンダレー街道を自動車で走っていると、きっとのビルは必ず眺んだ感に浸で言いた。竹屋茅ふたの家に住まねばならなかった。その内ちほうり出した荷物を別の区画彼等の信仰として仏塔をたてておった。このマンダレーヒルを除いては平たんな地になっていて、

マンダレーヒルには一大蔵経塔を中心として有名な四百五十塔がある。それらの塔は高さ三十尺乃至三十尺のものを全部揃いてやるんだ、といってきかない。もう一人の男はいつてきかない。前からのの巨大なもので、これが中央の大しかも金部が白く塗られてあり、何かの感情の発露があったらしい。「よしかる、焼く事だけは十二時まで待っておってくれないか」と、そこにはおらなかった。前からの二、三人のものとその部つた男を抱えこんで寝床の上に無理に寝かしてやった。その男は多分あきらめたのか、ぶつぶつ文句はいつておったがやがて眠ってしまった。

十二時の約束も忘れたかのように、酒はそを眺めながら自分があん心してむし暑い床に横になった。

第二号